



番組

ツレ成経 久保信一朗
ツレ康頼 角 幸二郎
シテ俊寛 観世清和

俊寛

ワキ赦免使 福王茂十郎
間 船頭 井上松次郎

大鼓 河村絵一郎
小鼓 大倉源次郎

笛 藤田六郎兵衛

後見 上田公威
山階彌右衛門

地謡

吉沢 旭 祖父江修一
八神孝充 観世芳伸
本田 勲 武田宗和
松山幸親 久田勘鷗

狂言 鐘の音

太郎冠者 野村又三郎

主人 松田高義

後見 野村信朗

休憩十五分

仕舞

老松 八神孝充
胡蝶 松山幸親
笹之段 久田勘鷗
春日龍神 伊藤裕貴
弱法師 武田宗和

地謡

加賀敏彦
清沢一政
梅田邦久
山中雅志

能

殺生石

前シテ里女 後シテ野干

観世芳伸

白頭

間

能男 奥津健太郎

大鼓 河村眞之介
小鼓 後藤嘉津幸

太鼓 鬼頭義命
笛 鹿取希世

ワキ玄翁道人 高安勝久

後見 角 幸二郎
梅田邦久

地謡

久田勘吉郎 清沢一政
伊藤裕貴 上田公威
山中雅志 山階彌右衛門
久保信一朗 祖父江修一

附祝言

(四時頃終了予定)

◆俊寛(しゅんかん)

「あらずし」平家討伐の陰謀が顕れて、俊寛僧都、平判官康頼、丹羽少将成経の三人は、九州薩摩湯の鬼界ヶ島に流されます。その後、中宮御安産の御祈禱のため、大赦が行なわれ、康頼・成経の二人だけが許されることになり、その赦免使が都を出立します。鬼界ヶ島では、康頼と成経が、島に勧請した熊野三社に参詣しています。俊寛は、自分は神信心をせず、二人の帰りを待ち受けます。そして、水桶の水を酒とみなして酌み交わし、互いに昔を想い起こし、今の境涯を嘆き合います。そこへ、都からの使者の船が到着します。俊寛は、使者の差し出す赦免状を、康頼に読ませますが、自分の名がないので、読み落しかといぶかります。ついで自分で読んでみましたが、やはり俊寛という名がないので、筆者の誤りかと疑います。しかし使者から、自分だけが許されていないという事を知らされて、悲嘆にくれます。俊寛は諦め切れず、同じ罪の筈なのにと嘆願しますが、その効はありません。やがて使者は、二人を船に乗せて出発しようとし、必死の思いで乗船を願いますが、舟人はそれを振切って船を出し、俊寛の嘆きを残して、遠ざかってゆきます。

◆殺生石(せつしようせき)

「あらずし」玄翁という高僧が、能力と奥州から都へ上る途中、下野国(栃木県)那須の原へさしかかります。空を飛ぶ鳥が、とある石の上を通ると落ちるので、不審に思っている二人の里の女が現れ、その石は殺生石といい、人畜を害する恐ろしい石だから、近寄らないようにと注意をします。玄翁がその由来を尋ねると、女は次のような話をします。昔、鳥羽院につかえていた玉藻ノ前は、才色兼備の女性で、帝も御気に入りであったが、実は化生の者であった。帝を悩ませようと近づいたが、その正体を見破られたのでこの野に逃げたが、殺されたため、その魂が殺生石になったのだと詳しく語ります。そして、実は自分はその石魂であるとかあし、夜になれば懺悔のため姿を現すといひ残して、石の中に隠れます。(中入)玄翁が石に向かって仏事をなし、引導を与えると、石は二つに割れ、中から野干(狐)が現れます。野干は、天竺(インド)では斑足太子の塚の神、大唐(中国)では幽王の後褒姒となつて世を乱し、日本へ渡り、この国をも滅ぼそうと玉藻ノ前という美女に妾に上つたが、安倍泰成の祈禱で都を追われ、この野に隠れ住んだが、狩り出され遂に射殺され、その執心が殺生石となった。しかし今貴僧の供養を受けたので、以後悪事はいたさないと誓つて消え失せます。

能楽手帖 権藤芳一より

平成29年度日程 名古屋観世会 定例公演予定

6月11日(日)
杜若 恋之舞 観世喜正
藤戸 蹠踏之伝 観世鏡之丞
11月12日(日)
巻絹 替装束 久田勘鷗
恋重荷 梅若玄祥

◆御案内

- 一 都合に依り曲目、出演者に変更があるかも知れませんが予めご承知下さい。
- 一 演能中はお静かに又演能中のお出入りはなるべくご遠慮下さい。
- 一 録音、撮影等はたかくお断り致します。
- 一 携帯電話及び時計のアラーム等はあらかじめ電源をお切り下さい。
- 一 幼児のご入場は勝手乍らお断り致します。
- 一 演能終了後の拍手は、シテが幕し入ります。迄御遠慮頂ければ幸甚に存じます。

名古屋観世会



名古屋能楽堂
〒460-0001 名古屋市中区三ノ丸一丁目1番1号

TEL.052-231-0088

FAX.052-231-8756
http://www.bunka758.or.jp/